

医

顔面けいれんの治療

38歳の女性。10年ほど前から顔の右側にけいれんが起き、つらくて悩んでいます。4年前に検査を受けた際、主治医に「治療法は手術しかない」と言われました。そ

れでも必ずしも治るとは限らず、危険性もあるとのことと踏み切れません。手術は本当に危険なのですか。ほかに治療法はないのですか、教えて下さい。(奈良・O)

答える人



伊藤 守さん
いとう まさむね
りんくう総合医療センター
脳神経外科部長(大阪府)

顔面のけいれんは、脳の中心、鼻の付け根の奥あたりで血管が顔の表情にかかわる神経を圧迫するために起こります。一方の目の周りで起き始め、次第に額やおおの方に広がっていきます。おおむね20代後半から症状が出てきます。

周囲の人が考える以上に、深刻に悩んでいる人が多いようです。飲み薬を使った治療だけではあまり効果がなく、治療は主として手術になります。

ただ、顔面にけいれんが起きても命にかかわるわけではないので日常生活に差し障るようになった時に判断して下さい。

手術は、耳の後ろに直径3〜5mmの穴をあけ、顕微鏡を見ながら細かい糸と接着剤を使って神経を圧迫している血管をすらしたり、血管と神経の間に数ミリのシートの置いてクッションにしたりします。約2時間で終わり、多くの場合、けいれんもすくなくなくなります。退院後の生活にも制約はありません。

手術以外にボツリヌス療法も

数年前から広がってきた手術で、8割以上が治っています。受ける人の年齢も様々です。ただ、危険性もあります。手術後、難聴になる可能性が数%あり、けいれんが起きている方と反対側の耳が難聴の人は基本的に手術できません。まれですが、脳を傷つけて重い影響が出ることもあるので、できるだけ経験の多い医師にかかるほうが良いでしょう。

最近、ボツリヌス菌の毒素から作った薬を注射する「ボツリヌス療法」が注目されています。筋肉の緊張を緩める働きがあり、目や口の周りの数カ所に注射をすれば3〜4カ月間けいれんを抑えることができます。

手術で治らなかつた人や負担が大きくて手術を受けられない高齢者も効果が期待できます。医療保険も適用され、相談の方のように、手術をためらっている人はこの治療法をまず試しても良いでしょう。目立った副作用も報告されていません。

ただ薬の量を増やすことができないので3カ月ごとに通院して注射する必要があります。



痛風講演会 17日13時半から東京都千代田区の霞が関ビル33階東海大学校友会館。赤坂中央クリニックの御巫清允院長らの講演。前立腺肥大と前立腺がんの話も。無料。問い合わせは痛風友の会 ☎03・3593・0714。

順天堂腎臓病・高血圧セミナー 9月14日13時から東京都文京区の順天堂大有山記念館講堂。落語家の三遊亭歌奴さんらの講演。食事もテーマ。無料。先着200人。申し込みはメディカル東友・順天堂腎臓病・高血圧セミナー係 ☎046・220・1705。

子宮・卵巣がん「わかちあいのミーティング」 24日13時半から横浜市の横浜女性フォーラム相談室。患者・家族が対象。資料代など500円。



イラスト:山田英利子 / The Asahi Shimbun

かしい? 患者

19

薬や検査に関係なく医療保険から一定の入院料が支払われる定額制度が90年に老人病院に導入され、この病院も薬を減らした。「そうしたら患者が元気になった」と、学会などで話題になったものだ。

医療現場では今でも高齢者に不要な薬がたくさん出されている。「筆頭が睡眠薬・精神安定剤」と、北摂総合病院理事の中野次郎さんは指摘する。

高齢者は薬の分解が遅い。安定剤シアゼパムが血中で半分になるのに青年の4倍近く、約80時間もかかる。

不眠の訴えに医師は睡眠薬や安定剤を出す。薬が長く体内に残ってふらつく。倒れば骨折して寝たきりになる

高齢者に出される不要な薬

危険性がある。筋肉の緊張を用を持つ薬だとさらに転びや圧を下げるすぎてもふらつき、危険性がある。

高齢者には孤独でこもりが「うつ」傾向の人も多い。睡つを悪化させ、老人性痴呆を昼間は眠らず、適当に動いてさせ、寝る前の興奮を避ける自然に眠る工夫がまず大切だ。抗不整脈剤は逆に重い不整起し、心停止を招くことが高齢者に脈の乱れ(期外収縮)ないが、大半は症状のない良だ。約10年前から米国では無整脈に薬を出さなくなったが、簡単に薬を出す医師が少な「医療には限界がある」と院協会副会長の天本宏さん。厚生省報告によると、高齢者決定する因子の半分(50%)食事、禁煙などの「生活習慣間関係や住宅などの「環境」つきの「遺伝子」が各20%。薬を含む「医療」が残りの10%。

(編集委員)